

令和 5 年度

事業者番号	0284	事業所番号	028402
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあっては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	株式会社リテラ 両神工場		
事業所所在地	市区町村	秩父郡小鹿野町	
	字・地番	両神薄2703番地	
産業分類名(中分類)	23 非鉄金属製造業		
分類番号(中分類)	23		
事業活動の概要	事業内容	自動車用・建設機械用等のアルミ部品の製造加工	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間		2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量(5,100t-CO ₂ 年)に対し、R2~R4年の平均削減率を6%以上とする。R5~R6年度の平均削減率を13%以上とする。(必要に応じて排出量取引を活用する。)				
	その他ガス					
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	23,256	t-CO ₂	事業所区分 第2区分		
	削減目標量(計画期間合計)	2,244	t-CO ₂			

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間		7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	基準排出量(5,100t-CO ₂ 年)に対し、削減計画期間の平均削減率を20%以上とする。(必要に応じて排出量取引を活用する。)				
	その他ガス					

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1,220	1,419	1,498		

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂	2,637	3,057	3,218	
前 年 度 比 (%)	—	15.9	5.3		
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO ₂				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	2,637	3,057	3,218		

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO₂)

CO₂換算 (t-CO₂/指標)

エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	1.3527	2.0344	2.0173		
前 年 度 比 (%)	—	50.4	-0.8		
活 動 規 模 の 指 標	単 位				
生産量	t/年	1,949.42	1,502.62	1,595.21	

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	2019年度：3,955t-CO ₂ 2020年度：2,637t-CO ₂ 33%削減 受注生産量が減少した為エネルギー使用量が減少。伴いCO ₂ 排出量も減少した。					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	2020年度：2,637t-CO ₂ 2021年度：3,057t-CO ₂ 16%増加 受注生産量は減少したが、2021年10月に鋳造～熱処理加工ラインを新設稼働している為、電力の消費量が増加。伴い、CO ₂ 排出量も増加した。 *熱処理加工ライン電力の消費量(約98kwh)					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減	無	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	2021年度：3,057t-CO ₂ 2022年度：3,218t-CO ₂ 5%増加 受注生産量は6%増加、2021年10月に鋳造～熱処理加工ラインを新設稼働して増産の為昼夜の電力消費量が増加、R3年度：2,439,340kw/年 R4年度： 2,7054,002kw/年 *前年度比11%増加した。					
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	5,100	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	5,100	5,100	5,100	5,100	5,100	25,500
	目標削減率の 緩和措置						
	トップレベル認定						
	目標削減率(B)	6.00%	6.00%	6.00%	13.00%	13.00%	
	排出上限量 ($C = \sum A - D$)						23,256
	排出削減目標量 ($D = \sum (A \times B)$)						2,244
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	2,637	3,057	3,218			8,912
	削減率 ($F = (A - E) / A$)	48.29%	40.06%	36.90%			—
	排出削減量 ($G = A - E$)	2,463	2,043	1,882			6,388
各年度の排出量の検証		未実施	未実施	未実施			

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	310400	一般管理事項	31_エネルギー使用量の管理	「電力使用量」「LPG使用量」の管理(継続)	R4	R4	
2	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	コンプレッサー週末停止	R4	R4	9.0
3	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	「コンプレッサー自動制御システム」制御運転による効率管理・・・工場全体電力の約9%削減(継続)	R4	R4	83.0
4	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	铸造新棟(天上360w水銀灯20灯)のLED更新	R4	R4	11.2
5	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	各職場(40w蛍光灯)のLED更新	R4	R4	1.0
6	490200	その他	49_その他の削減対策	エアー漏れ点検3回/年	R4	R4	1.0
7	370700	電動応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	铸造機モーターの更新(プレミアムモーター) 12号機	R4	R4	1.9
8	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	コンプレッサー室換気扇の季節停止	R4	R4	3.5
9	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	吐出圧力低下コンプレッサー更新・・・6号機	R4	R4	11.5
10	370700	電動応用設備、電気加熱設備等	37_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	熱処理炉立上時間の削減	R4	R4	2.2
11	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	キャノピー倉庫LED更新(10灯)	R5		1.0
12	360700	ポンプ、ファン、ブロー、コンプレッサー等	36_電気の動力・熱等への変換の合理化に関する措置	吐出圧力低下コンプレッサー更新・・・2台	R5		23.0
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

平成28年度から生産量が増加してエネルギー使用量が1,500kLを超えた為、平成30年度から「事業所C」での報告となり5年が経過した。エネルギー削減に対して多種の省エネ施策を行ない効果を確認しているが、R3年度に加工ラインを新設してR4年度は増産体制により電力の使用量が増加、伴いCO2排出量も増加。